

2023

暴力団 **情勢** と **対策**

～企業・行政対象暴力の現状～

全国暴力追放運動推進センター
警察庁組織犯罪対策部

主要団体等の状況

主要団体等^注の令和4年における主な動向は、次のとおりです。

●六代目山口組

神戸山口組との間で「特定抗争指定暴力団等」としての指定の期限が延長されたことを受け、警戒区域外で執行部会やブロック会議を開催しています。

令和4年2月に幹部の降格人事を行う一方、同年3月に死去した直系組長の跡目を継承した組員を直参に昇格させるなど、体制の維持を図っています。

同年12月、池田組との間で「特定抗争指定暴力団等」に指定されました。

●神戸山口組

六代目山口組との間で「特定抗争指定暴力団等」としての指定の期限が延長されたことを受け、警戒区域外で会合を開催しています。

令和4年8月及び10月に直系組長の絶縁・除籍を行ったが、昇格人事を行うことで体制の維持を図っています。

●絆會

執行部会やブロック会議等の会合を開催しているほか、本部長や若頭補佐への昇格人事を行うことで体制の維持を図っています。

●池田組

岡山県内において、定例会等の会合を開催しています。

令和4年12月、六代目山口組との間で「特定抗争指定暴力団等」に指定されました。

●住吉会

令和4年3月から4月にかけて昇格人事及び直系組織の代表継承を行い、組織の活性化を図っています。

同年5月に死去した代表の葬儀が傘下組織事務所において行われるとともに、埼玉県内の住吉会関連施設において、会長以下約350人が出席し、四十九日法要が開催されました。

六代目山口組への時候挨拶を行うなど、その関係を維持しています。

●稲川会

令和4年4月に直参への昇格人事を行ったほか、同年10月に新たに直参となった者に関する「親子縁組盃儀式」及び新たに直系組織の代表となった者に関する「一家代目継承盃儀式」を開催するなど組織の維持及び活性化を図っています。

六代目山口組への時候挨拶を行うなど、その関係を維持しています。

注：平成27年以降は、六代目山口組、神戸山口組、住吉会及び稲川会を「主要団体」として表記していましたが、平成30年以降は、絆會を含む5団体を、令和3年以降は、池田組を含む6団体を「主要団体等」として表記しています。

暴力団の特徴

●凶悪化

暴力団は、自己の意に沿わない事業者に対して、拳銃の発砲、手りゅう弾の投てき、放火等といった報復、見せしめとみられる襲撃事件を敢行したり、組織内部の争いから、銃器を用いた対立抗争事件を引き起こしたりするなど、凶悪事件を敢行しています。

●不透明化

暴力団対策法が施行された後、暴力団は組事務所から紋、看板等を撤収し、名簿等に構成員の氏名を記載せず、暴力団を示す名刺を使用しないなど、組織実態に関する事実を隠ぺいする傾向が強まっています。

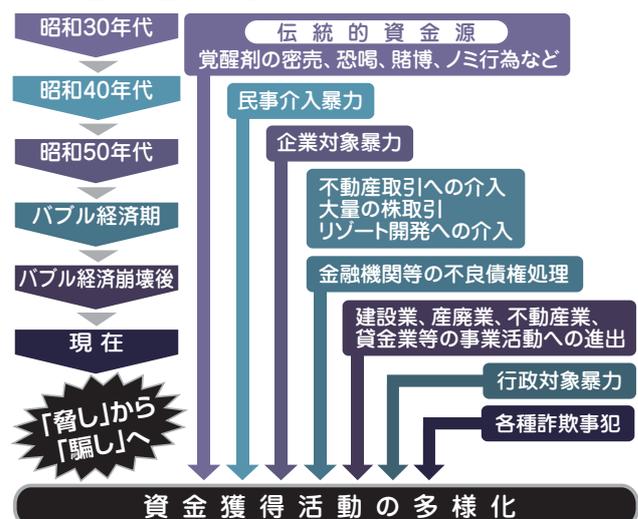
また、活動形態においても、社会運動や政治活動を仮装、標ぼうするなど、不透明化の傾向が一層顕著になってきています。

●資金獲得活動の多様化

覚醒剤、賭博等の伝統的な資金獲得活動や民事介入暴力、行政対象暴力等に加え、その組織実態を隠ぺいしながら、建設業、金融・証券市場へ進出して、企業活動を仮装した一般社会での資金獲得活動を活発化させています。

また、公共事業に介入して資金を獲得したり、公的融資制度等を悪用した詐欺事件や特殊詐欺事件等を多数敢行するなど、社会経済情勢の変化に応じた多種多様な資金獲得活動を行っています。

◆暴力団の資金獲得活動の変遷



●寡占化

主要団体等の組織勢力の寡占化が続いています。令和4年末のこれら主要団体等の暴力団構成員等の総数は16,100人で、暴力団全体の71.9%を占めています。